



☆**県外に出ていく壁を高くするのではなく、郷里に帰郷する壁(ハードル)を低くする必要があります**

能條 桃子氏

大学進学や就職で東京や、県外へ行く事をただ抑制するのではなく、その後、郷里に戻ってくるハードルを低くする事が重要である。働く場所や生活の為に環境をよりよく整える事に力を使うべき

☆**環境に配慮した再生可能エネルギーである風力発電や太陽光発電だが、太陽光の下では、日光不足で農作物が育たない。また、洋上風力では魚の生態系に影響を与えるのでは？という懸念もあり矛盾している様に思うが、実態はどうか？**

☆**コロナ禍で私達の生活に様々な制約が及ぶ中で、リモートが普及し、能代で能條さんや石破さんのお話を聞く事ができた。まさにピンチをチャンスに変える事だと思うが、地方のピンチといえる部分をチャンスに変えるにはどうすればいいか？能代松陽高校**



☆**日本では2030年までにCO2(二酸化炭素排出量)の削減目標を46%減と決めた世界ではEUが55%削減目標、米は50%削減目標を掲げている 能條 桃子氏**

世界ではパワーシフトが起こっており、旧来のエネルギーを大量生産、大量消費の時代から変化している。例えば日本でも電気を自由に購入する会社を決められる。皆さんも自分の家や学校で使用しているエネルギーがどこからきているのか？調べる事から初めてみたらどうか？その電力は再生可能エネルギーなのか？環境に配慮した形でつくられたものなのか？

☆**木都のしろが新技術を使って木の文化、ムーブメントを起こすのは夢のある話だと思う 石破 茂氏**

国土に占める森林面積は日本が先進国で一番、そこで、木都のしろが、CLT(直交集成板)を使って、公共施設などを木で建設する等、新しい木の文化の魁となるのはどうか。

秋田県出身:こばやしたけし氏 著「地方は活性化するか否か」を紹介
また、宮崎県小林市のおもしろいPR動画を紹介
地方に住んでいる人がその土地の良さを知り、アピール、発信する事こそ、活性化につながる



☆**再生可能エネルギーをつくる事ばかりでなく、エネルギーを使わない生活を考える 石破 茂氏**

産業の過剰な発展が、現在の環境汚染の現状を招いている。自然を守り、自然や動物と共生していく人間古来の営みに戻す事も考えるべき。
20年後、30年後に街がどうなるのかを考え、今から行動を起こしてほしい、良い日本を能代から作ってほしい

☆**「私が高校生の時は、なんだかんだと楽しく過ごす事がクールかなと思っていたが、実は、そんな事はない。青臭い正義感や自分達世代だから見える社会の違和感を大切に地域に貢献してほしい」 能條 桃子氏**



私達の未来は私達が考え、作っていくんだ。
日常生活で感じる違和感や疑問をそのままに放置せず自分事として考え、解決策を模索していく
声を上げれば、賛同する仲間も自然に集まってくるのではないかと、感じました。スウェーデンの環境活動家グレートウンベリさんの活動の様に
そして、外へ向けて発信していく。
今回のセミナーで、能條さん、そして石破さんのお話を伺って、また能代の高校生達と話し合いをする中で誰かが何かをしてくれるのを待つのではなく、自ら行動を起こしていく事がとても大切であると教えていただきました。また、皆さんで話し合ったテーマである、人口減少、環境保護、エネルギー対策も、そして能代の街の活性化も、能代に住む私達が、自分事として考え、行動を起こす事が一歩につながると考えます。

